

富山県子育て支援・少子化対策条例に基づく基本計画の中間報告に対する意見の概要及び県の考え方

募集期間:令和6年11月1日(金)から11月29日(金)

意見提出件数:3名(延べ3件)

No.	意見の概要	意見への対応
1	<p>・日々SNS等々から配信される膨大な情報に接する対象世代にとって「至れり尽くせり」の政策・施策が『人生観』『価値観』に影響(コミットしすぎ・反発)を与えないのか気がかり。 「つかず離れず」の政策・施策の方が良いのではないか。</p>	<p>こども家庭庁の報告書によると、今の若い世代は、社会的に正解とされる生き方が消失した一方で、多すぎるほどの情報やつながりを通して多様な選択肢を知る中で、「他人や社会にとっての正解」よりも「自分なりの納得解」を大切にしている傾向にあるとされています。 そういった若者の価値観・考え方を尊重しながら、自分の将来を自らで考え選択できるよう、参考となる知識やロールモデルを提供し、ライフプラン形成支援等の施策に取り組んでまいります。</p>
	<p>・県の政策『I'm Your Home 旅立つ君へのエール』に+高校卒業式の日(各校同日なら◎)駅中ピアノ(富山駅)にて名曲『旅立ちの日』を演奏し、更に駅を3年間利用した卒業生(公募・有志一同にて)が駅長さん中心に合流大合唱なさってみてはいかがでしょうか。(故郷の印象・思い出の一部雰囲気づくり)</p>	<p>富山県から広い世界へ旅立つ若者たちに、いつでも帰れるHomeとして旅立ちを応援するプロジェクト『I'm Your Home』を令和4年度(2022年度)から毎年アプローチを変えてメッセージを発信しています。 令和4,5年度(2022,2023年度)は卒業シーズンとなる3月に富山駅周辺や富山駅構内にて親や富山の街の方々から旅立つ若者への応援メッセージの掲出やメッセージ動画の配信を行い、学生を中心に多くの方にご覧いただきました。 今年度は、県が運営する富山県魅力発信ポータルサイト「doorsTOYAMA」において富山県出身でさまざまな分野の第一線で活躍している先輩から若者へ向けたエールを贈るインタビュー記事を11月から連載しているところです。 引き続きいただいたご意見も参考にしながら、県外へ進学・就職後も富山とのつながりを感じ、いつでも帰れるHomeとして、挑戦する若者を県全体で応援する気運の醸成に努めてまいります。</p>
2	<p>・経済的な負担等から保育園を利用するのに苦労した。少子化を克服するためには、子育てにかかる費用を軽減することが重要である。若い世代が子育てに対して魅力を感じ、前向きになれるような効果的な少子化対策を望む。</p>	<p>保育料の軽減等については、子育て世代の経済的負担軽減の観点からも極めて重要と考えており、地方の財政力によって地域間の格差が生じないよう、国の責任において全国一律の包括的な仕組みづくりをしていただくべき課題であると考えています。 しかし、なかなかその対応が進まないことから、富山県では、子育て世帯の経済的負担の軽減のため、これまでも市町村と連携し保育料の軽減に取り組んできており、今年度は新たに第3子以降の所得制限を撤廃し、完全無償化としたところです。 さらなる支援の拡充については、引き続き、あらゆる機会を通じて、国に対し強く働きかけていくとともに、実施主体である市町村とも相談しながら、検討を進めてまいりたいと考えています。</p>
3	<p>・少子化の最大要因は婚姻数の減少であり、婚姻数を増やさなくては少子化は止まらない。結婚や出産、子育ての希望が叶えられることが大事。 ・婚活支援では、出会いイベントや、婚活にこだわらず、趣味やボランティア等、若者同士が出会える場を増やせると良い。また、女性が希望する男性像にほど遠い人が多いことから、男性を魅力ある外見、コミュニケーション能力など鍛えるセミナー等があれば良いのではないか。 ・社会に出て「出会いがない」と思った人は、何かしなければ出会いはないことから、結婚したければ婚活しなければいけないという認識を社会に出る学生の時期から知る機会があると良い。 ・今の世の中は「結婚しない生き方」も尊重されるようになったが、「結婚しない」選択をする前に、この世に生を受けた生き物として「子孫を残す」という使命もある。子供たちにどうやって自分たちが産まれてきたのか、「種の存続」という事を教えて欲しい。 少母子対策、出会いの場と結婚できる人間の増加につながる施策をお願いしたい。</p>	<p>出生数と婚姻件数は関係が深く、婚姻件数の減少は少子化の大きな要因となっていることから、県においてもとやまマリッジサポートセンターにおいてお見合いの支援や交際の仕方を学ぶセミナーを行うとともに、若者同士が気軽に交流できるコミュニティ「TOYAMATCH」を運営する等結婚支援策に取り組んできているところです。 令和5年度に県が実施した結婚等に関する意識調査において、異性との出会いの場所がわからないと答えた方の割合が高いことも踏まえ、今後とも出会いの機会の創出に努めるとともに、大学生や若手社会人に対して、早いうちから就職や結婚等のライフイベントについて考え、自らの希望する将来を描けるようライフプランの形成支援も行っていきたいと考えております。 施策の実施に当たっては、特定の価値観を押し付けたり、プレッシャーを与えたりするものにならないよう最大限注意しながら、結婚や出産、子育てを希望する方の願いが叶うよう、引き続き取り組んでまいります。</p>
	<p>・妊活支援は不妊治療の補助金も大事であるが社会の理解も必要である。不妊治療では、会社を休まなければいけない場合もあるため、休みやすい環境を作る事が大事ではないか。</p>	<p>不妊治療は、通院の回数やそのタイミング、治療時間といった時間的制約があるほか、身体的・精神的・経済的負担が大きく、ご意見のとおり、仕事と両立できる職場環境を整備することが重要であると考えています。 県ではこれまで、仕事と家庭を両立できる職場環境づくりを促進するため、業界団体等が開催する働き方改革等をテーマとしたセミナーへの講師派遣や次世代法に基づく一般事業主行動計画の策定支援に取り組むほか、好事例の紹介等などを行ってまいります。 このような取り組みの横展開を図りながら、県内の事業所において、不妊治療が受けやすい職場環境づくりがさらに広がるよう取り組んでまいります。</p>